

トウモロコシサイレージを主体とした日本短角種の肥育全期間粗飼料多給技術

【1 成果の要約】

日本短角種に肥育全期間でトウモロコシサイレージを主体とした粗飼料を多給することにより、慣行肥育と同等の発育・産肉成績を得られるとともに高い飼料自給率を確保することができます。また、皮下脂肪中で健康に良いとされる脂肪酸（リノレン酸など）の割合が増加し、粗飼料多給肥育による新たな優位性を発見しました。

【2 成果の内容】

- (1) トウモロコシサイレージを主体とした自給粗飼料の多給体系（下表）では、21-25ヶ月齢程度で生体重700kgに到達し、一般市場出荷平均である、23ヶ月齢700kgを概ね達成できます。
- (2) 粗飼料摂取割合（TDNベース）は、70%以上（慣行；23.2%）と非常に高く、本体系を導入することにより、飼料自給率向上が図られます（下表）。
- (3) コーン+豆腐粕体系で皮下脂肪が厚くなることで、歩留基準値が若干低くなるものの、それ以外では慣行と同等以上となり、肉質等級はすべて2等級以上となります。また、脂肪中のリノール酸と健康に良いとされるリノレン酸の比は8.0（慣行14.0）と低く、脂肪の質が改善されます。

体系	月齢範囲 (ヶ月)	体重範囲 (kg)	DG (kg/日)	700kg 到達月齢 (ヶ月)	飼料摂取量(kg)			粗飼料 摂取割合 (%)	枝肉格付		
					飼料	現物	乾物		枝肉重量 (kg)	歩留 基準値	BMS
コーン ふすま体系	8.0 ~21.8	250 ~700	1.0	21.8	トウモロコシS	9,000	2,990	72.3	405.0	73.3	2.0
					ふすま	1,200	1,020				
コーン 豆腐粕体系	8.0 ~20.5	250 ~700	1.1	20.5	トウモロコシS	8,000	2,658	77.3	413.0	72.1	2.0
					豆腐粕S	2,300	690				
ソルガム 混合体系	8.0 ~26.0	250 ~750	0.9	23.0	トウモロコシS	7,000	2,325	77.3	455.8	73.2	2.5
					ソルガムS	4,000	1,264				
					豆腐粕S	3,100	929				
グラス 混合体系	8.0 ~26.0	250 ~730	0.9	24.8	トウモロコシS	6,000	1,993	76.4	433.0	73.0	2.5
					グラスS	4,000	2,792				
					豆腐粕S	4,000	1,199				
(参考) 慣行肥育	8.0 ~25.0	250~ 730	1.0	23.9	配合飼料	3,400	2,890	23.2	416.0	72.3	2.1
稲ワラ	530	462									
グラスS	1,300	907									

慣行肥育の増体、飼料摂取等のデータは試験データ、格付は直近の一般肥育のデータを引用した。

【3 ご注意ください！】

- (1) サイレージの品質により嗜好性の変化や増体への影響が考えられるので、飼料の品質、飼料摂取状況を把握し、増体管理を行ってください。
- (2) 豆腐粕サイレージは、おからとビートパルプの混合物を発酵させた飼料です。
- (3) カルシウムが不足するため、炭酸カルシウムを1日に50g添加してください。

【4 適応対象】

- (1) 成果の適応地域 日本短角種の飼養地帯
- (2) 成果の対象者 日本短角種の肥育農家の方